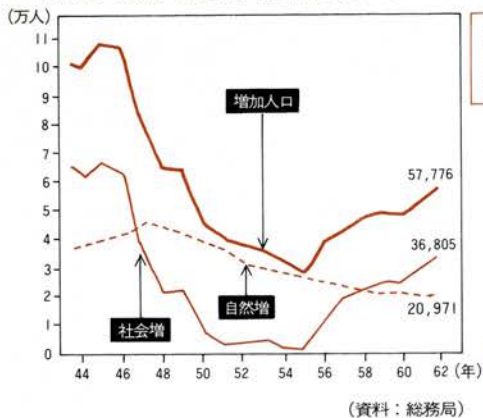


人口

■人口増加要因

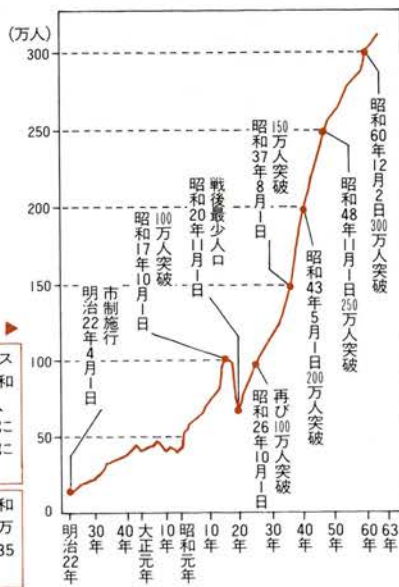
59年から再び社会増が自然増を上回る



自然増は47年をピークに下降し続けたが、62年に前年を若干上回った。

■300万人の軌跡

60年12月300万人を突破



■年齢構成

高齢化率7.3%いよいよ高齢化社会に突入

年齢区分	昭和50年	昭和55年	昭和60年	全国平均(昭和60年)
年少人口 (0~14歳)	25.3%	24.0	21.0	21.5
生産年齢人口 (15~64歳)	69.6%	69.6	71.7	68.2
老年人口 (65歳~)	5.1%	6.2	7.3	10.3

(国勢調査)

年齢3区分では、全国平均に比べ生産年齢人口割合が高く、老年人口はまだ少ない。しかし、5年間で老年人口は44,119人ふえた。

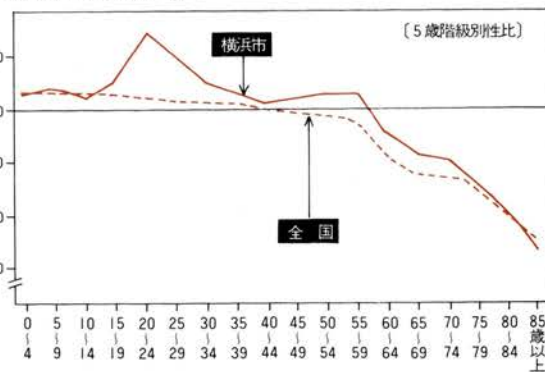
性は女子100人に対する男子の数で表わされ、本市は105.0、全国平均は96.7。

年齢階級別に性をみると20~24歳では128.0で全国平均を著しく上回っている。

11大都市中性比が最も高いのは川崎。本市は第2位

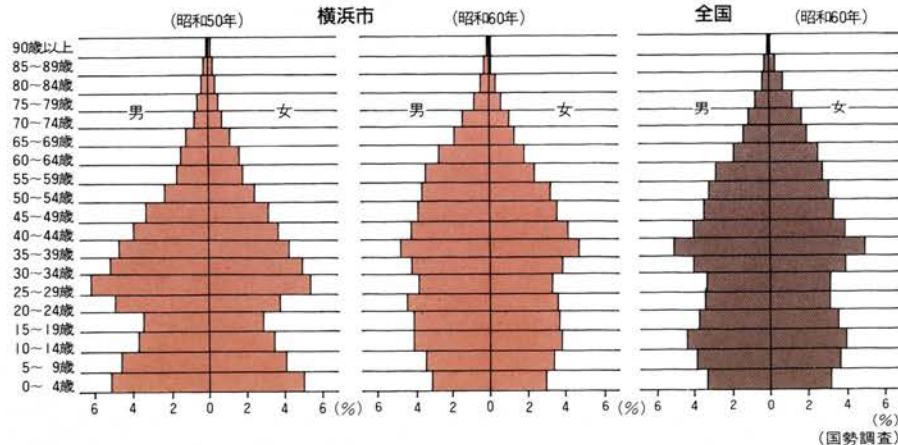
■性比

若者は男が圧倒的に多い



■人口ピラミッド

本市はつぼ型



人口ピラミッドは、年齢階級別の人口構成を男女別にグラフ化したもので、一般的に富士山型→つりがね型→つぼ型へと移行すると考えられている。

わが国の人口ピラミッドは昭和25年頃までは富士山型だったが、現在は2度のベビーブーム世代がふくらんだひょうたん型。本市は20~30歳の人口の割合が高いので、ほぼつぼ型。

区別人口

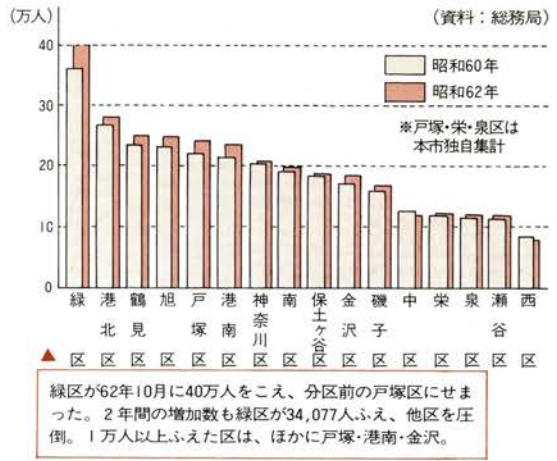
区別人口密度

南区は泉区の3倍以上



区別人口

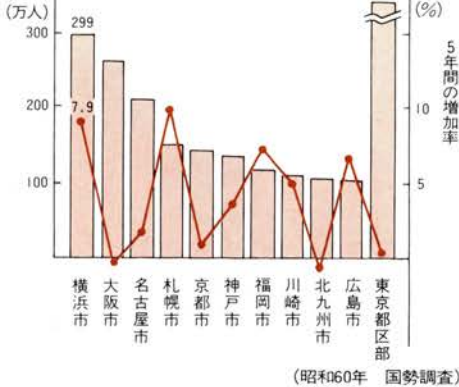
2年間の減少区は中・西のみ



大都市比較・外国人

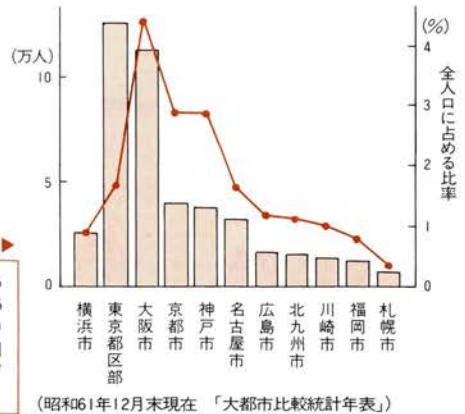
11大都市の人口

5年間の増加数は本市がトップ、増加率は第2位



11大都市の外国人数

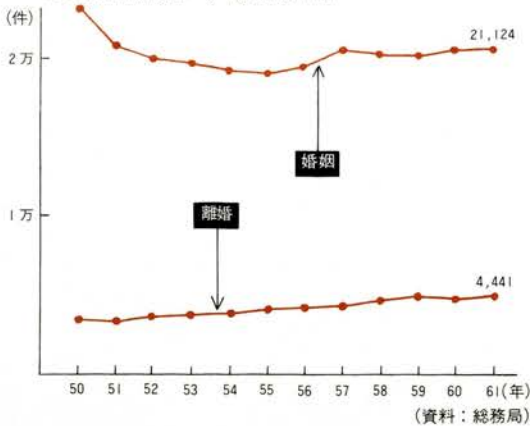
横浜は第6位



家族

婚姻および離婚件数

婚姻はほぼ横ばい、離婚は漸増



核家族率

ほぼ三分の2と全国平均を上回る

	核家族	単独世帯	その他
昭和50年	64.9%	23.0%	12.1%
昭和55年	66.3%	22.6%	11.0%
昭和60年	65.3%	24.1%	10.6%
全国平均(昭和60年)	60.0%	20.8%	19.2%

(国勢調査)